

首里杜地区まちづくり団体連絡協議会から  
首里城復興基本計画および  
那覇市のまちづくりへの提言  
「50年後、どんな首里のまちにしたいですか？」

令和3年2月

首里杜地区まちづくり団体連絡協議会（首里社会議）

古都首里のまちづくり期成会

首里振興会

御茶屋御殿復元期成会

城西小学校区まちづくり協議会

首里三ヶ城南校区まちづくり協議会

事務局担当 NPO法人 首里まちづくり研究会

〒903-0824 那覇市首里池端町 34-2 F

※この提言に関するお問い合わせは…

[suimachiken@gmail.com](mailto:suimachiken@gmail.com) Tel 050-5309-5336

## 悠久の時をつなぐまち、首里からの提言

首里城公園開園以来、29年が経とうとしています。この間、沖縄の観光は基幹産業として大きく成長し、入域者数は年間1,000万人に、首里城を訪れる人は年間250万人を数えるようになりました。国内外からの旅行者が世界で唯一無二の首里城を見学し、琉球・沖縄の歴史を感じることは大変有意義であり、首里地区住民の多くはそれを誇りに思っています。しかし、レンタカーや観光バスで首里城公園に直接乗り入れる「首里城観光」への違和感や問題意識は、年々高まっていると言わざるを得ません。

首里城焼失後、首里杜地区では大きな喪失感を共有する一方で、「御城と共にあるまち」の「あり方」を見直そうという機運が生まれました。議論を重ねる中で共通認識としてあがってきたのは「これまでは観光向けのイメージが強かったが、首里城は本来ただの観光施設ではなく、琉球文化を象徴する存在である」「首里のまちも観光イメージで語られがちだが、地域には地域の暮らしがある」「地元住民、沖縄県民に愛され、大切にされる首里城を目指すべき」などという意見でした。

王都首里には、長い歴史があります。伝統文化を育み、洗練させてきた場が、首里城であり、首里のまちであり、首里の住民たちでした。だからこそ我々首里杜地区住民は、県の首里城復興基本計画や那覇市のまちづくりに関し、本物志向のまちづくりであることを求め、先人の営みが生み出してきた風景を大切に、歴史の継承者である次世代の子どもたちに伝統文化をつなぐことの重要性を訴えます。これからも観光が沖縄の基幹産業であることに変わりはありませんが、ポスト・コロナ、そしてニューノーマルの時代にこれまで通りの観光政策で良いのかという疑問が残ります。今後、求められるのは、自然を守り文化を掘り下げた付加価値の高いツーリズムであり、地域住民と来訪者が共に創り上げるサステイナブルな「地域交流ツーリズム」ではないでしょうか。特にコロナ前から我々が解決を求めていた交通問題は、地域課題と観光課題の両方を解決できる方策があると考えます。また、首里城復興基本方針ではあまり触れていませんが、現代社会はICTを抜きにしてはいかなる課題も解決できません。今後の首里のあり方を方向づける首里城復興基本計画において、ICTに関する視点を全項目に横断的に取り入れるべきだと考えます。

### 首里でできることは、他でもできる。

地域の暮らしに根ざした我々の提言は、主語や想定範囲を首里城周辺に限定しているように見えるかもしれませんが、ですがここで示す考え方の多くは、オーバーツーリズムや高齢化など他の地域に共通する課題にも応用できるものです。地域課題は、ともすれば日常生活の中で解決を先延ばしにしてしまいがちです。我々は首里城焼失という事態を逆手に取り、地域社会の主役は住民であることを再確認し、首里をモデル地区として、ツーリズムとコミュニティのあり方を見直したいと考える他の地域に、考え方や方法論を応用していただきたいと考えます。

## 目次

前文 悠久の時をつなぐまち、首里杜からの提言……………	1
提言とりまとめまでの経緯 ……………	3
首里社会議からの提言（概要編）……………	5
首里社会議からの提言（資料編）……………	8

## 提言とりまとめまでの経緯

### ●首里杜地区まちづくり団体連絡協議会とは

首里杜構想で定義される「首里杜地区」には、複数のまちづくり団体があります。理念や目的が異なるため、これまではゆるやかに連携して活動してきました。しかし首里城焼失という非常事態に際し、これまで以上にしっかりと連携を取るべきだと考え、NPO法人 首里まちづくり研究会が呼びかける形で令和2（2020）年6月に首里杜地区まちづくり団体連絡協議会（略称：首里社会議）が発足しました。

#### <参加団体>

##### ①古都首里のまちづくり期成会

首里城復元期成会の流れを受け、平成22(2010)年4月に設立。

##### ②首里振興会

平成19(2007)年4月設立。前身は首里文化祭実行委員会で、首里地区最大の団体。

##### ③御茶屋御殿復元期成会

平成10(1998)年2月設立。御茶屋御殿の復元をめざす活動に特化した団体。

##### ④城西小学校区まちづくり協議会

平成30(2018)年4月設立。城西小PTA、校区内の自治会や団体などが所属。

##### ⑤首里三ヶ城南校区まちづくり協議会

令和元(2019)年6月、首里三ヶ青少年健全育成会（三青会）の伝統を受け継ぎ設立。

##### ⑥NPO法人 首里まちづくり研究会（すいまち研） ※首里社会議事務局担当

平成17(2005)年12月に建築士会首里支部や地元住民などで設立。那覇市景観整備機構認定第1号。

### ●これまでの活動

首里社会議では、県の首里城復興基本計画策定スケジュールに合わせる形で、地域住民の意見を集約することを目標に具体的な動きを議論。県がすでに発表している首里城復興基本方針の項目立てに合わせ、地域住民の生活と深く関わる部分について調査や議論を行うこととしました。新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、項目別のワーキンググループを設置し、具体的な議論はグループ別に少人数で行い、途中経過を首里社会議で共有しました。また、首里社会議の活動は、NPO法人首里まちづくり研究会が自主事業で開催する一連の「観光と首里まちづくりシンポジウム&ワークショップ」と並行して行い、これと連動して地域住民の意見を集約することとしました。

## 首里社会議の活動

※太字は首里社会議、細字はすいまち研自主事業

### 【6月】

6/20 首里杜地区まちづくり団体連絡協議会発足会議（全体会議）

### 【7月】

7/4 首里社会議（実務者会議） コロナ禍での議論の進め方、提言のスタイルについて議論

7/18 観光と首里まちづくりシンポジウム勉強会

「首里杜構想と首里のまちづくり」講師：池田孝之氏（琉球大学名誉教授）

### 【8月】

8/1 首里社会議（実務者会議） 提言のスタイルおよびグループ分けなど議論

8/8 第1回観光と首里まちづくりシンポジウム

登壇者：下地芳朗氏（OCVB会長）、安里進氏（沖縄県立芸術大学名誉教授）

仲地宗幸氏（城西小学校PTA）、城間有氏（沖縄タイムス記者）

伊良波朝義（すいまち研理事長）、進行：平良斗星（すいまち研副理事長）

8/29 首里社会議（実務者会議） シンポジウムの内容を受けて、提言の方向性を議論

### 【9月】

9/5 みんなで考えるサステイナブルなまちづくりワークショップ①

「他地域の先行事例を学ぶ」講師：丸谷耕太氏（金沢大学助教）

9/19 首里社会議（実務者会議） ワーキンググループ経過発表

9/12 みんなで考えるサステイナブルなまちづくりワークショップ②

「那覇市の交通計画・都市計画における首里の位置づけを学ぶ」

講師：平良正樹氏、金城聡氏（那覇市都市計画課）

9/19 みんなで考えるサステイナブルなまちづくりワークショップ③

「住民目線で首里のまちづくりについて話し合うグループワーク」

### 【10月】

10/3 首里社会議（実務者会議）

2回目シンポジウムに向けて提言骨子の取りまとめ

10/17 第2回観光と首里まちづくりシンポジウム

提言骨子案発表「50年後、どんな首里のまちにしたいですか？」

登壇者：下地芳朗氏（OCVB会長）、清水肇（琉球大学工学部教授）

伊良波朝義（すいまち研理事長）、進行：平良斗星（すいまち研副理事長）

### 【11月】

11/26 首里社会議ワークショップ「50年後、どんな首里のまちにしたいですか？」

### 【12月】

12/19 首里社会議

ワークショップの結果を受けて、提言の内容について議論

# 首里社会議からの提言（概要編）

首里城復興基本方針のうち、地域住民の生活に深く関わる方針6、7と9に関して、2回のシンポジウムと4回のワークショップを通して出た意見を、住民目線での地域の提言としてまとめました。また、首里社会議からの提案として、「情報発信・情報共有」という項目を加えています。ここではこれらの概要を太字にて記載します。

※詳細については8ページ以降をご参照ください。

## 首里城復興基本方針6「新・首里杜構想」による歴史まちづくりの推進

### (1)歴史を体現できる風格ある都市空間の創出

#### 【地域からの提言】歴史と文化が調和する風格あるまち

- ①首里城や玉陵、園比屋武御嶽石門等、復元整備された文化財同等の固有性を大切に  
した本物志向の建造物や工作物等の整備
- ②首里城や首里八景からの眺望（歴史的風土保全地区内）を重視したまちなみや  
風格あるスージグワの整備
- ③地形・地質、水系、植生等を基盤にできた首里の歴史的環境を再確認し、  
特に水と緑の潤いが感じられる豊かな環境の整備

## 首里城復興基本方針6 (2)首里城公園及び周辺地域の段階的整備

#### 【地域からの提言】首里杜地区を点ではなく面として周遊できる環境へ

- ①中城御殿、円覚寺、御茶屋御殿、松崎馬場、中山門、弁之御嶽、  
伊江殿内庭園などの段階的整備のためのロードマップの作成
- ②旧国宝や県・市指定文化財、その他の地域文化財などの整理を行い、  
文化財や遺跡などの保全や整備、活用方法についての検討
- ③染物や織物、泡盛、琉球菓子等、王朝時代から連綿と続く伝統産業に、  
子どもをはじめ県民や観光客が直に触れられ、文化を楽しめる拠点の整備

## 首里城復興基本方針 6 (3)交通環境の整備

**【地域からの提言】** 渋滞のない、住民にも観光客にもやさしく、歩きやすいまち

- ①とにかく歩行者優先、安心安全歩いて楽しいまちづくりを目指す
- ②免許返納時代に対応した交通福祉ニーズにも応えるために、  
新しい交通手段も活用した交通特区も検討を
- ③首里のまちのキャパシティはどれくらいが適切なのかをしっかりと調査  
オーバーツーリズムを防止
- ④渋滞の原因を調査し、住民による自治でできることは住民で対処

## ★首里社会議からの提案★首里城復興基本方針 6 (4) 情報発信・情報共有

**【地域からの提言】** 今後のまちづくり全般にICTが盛り込まれた環境へ

- ①首里城並びに首里地域（首里杜地区）における風格ある歴史的風致を  
体現するため、スマホやインターネット対応のVR/ARを推進し、  
様々な情報をタイムリーに発信
- ②来訪者が立ち寄る箇所へ案内板とQRコードを設置し、道案内や名所旧跡、  
防災情報等、多面的な情報を提供し、周遊できる環境を整備

## 首里城復興基本方針 7 歴史の継承と資産としての活用

### (1) 多様で魅力ある観光資源の活用

**【地域からの提言】** 歴史と伝統文化を体感できる整備で、住民と訪問者双方が満足するまち

- ①アフターコロナの時代を見据えた市場調査の上で、エビデンスに基づいた  
ハード面・ソフト面を含めた総合的な環境整備の検討
- ②歩道や街路樹、東屋や屋根付きバス停、ポケットパーク（小広場）など  
周遊性の向上を考慮したハード整備
- ③適正な入域者数コントロールと「首里に来れば本物に触れられる」という  
質の高い体験ができる場づくりで、満足度とリピート率の向上を

## 首里城復興基本方針7 (2) 平和を希求する「沖縄のこころ」の発信

### 【地域からの提言】近現代史も含め、足元の琉球・沖縄史を学べる場に

①32 軍司令部壕の平和学習の場としての整備。

1954 年ハーグ条約の理念をふまえ、世界遺産の地下に沖縄戦の負の遺産 32 軍司令部壕が築かれていたことが一目瞭然の環境を整え、平和を希求する「沖縄のこころ」を世界に向けて発信。

②グスクに祈りの場を設け世の安寧を願った先人の祈りのこころは、平和を希求する「沖縄のこころ」として受け継がれており、首里城の長い歴史を学べる仕組みを作ることにより県民には「沖縄のこころ」の再認識を、訪問客には「平和を希求する沖縄のこころ」を発信。

## 首里城復興基本方針7 (3) 次世代を担う子供たちへの継承

### 【地域からの提言】首里杜地区が地元であることを子どもたちが誇りに思える場に

①国・県・市・指定管理者・地域の5者で、次世代継承に関する協議の場を定期的に設ける

②首里杜地区にある文化財に関して、子どもたちも利用しやすいように県民割引などを導入し、地域での利用促進を促す

③地域の団体等と協力して、子どもたちの体験の機会を創出。

また、教育の中で地域の芸能・芸術・工芸等にふれる機会を作れるよう学校等の教育機関にも積極的に関わられる仕組みづくり

## 首里城復興基本方針9 基本計画の策定・推進

### (3) 県民等の継続的な参加による復興

### 【地域からの提言】行政と住民が協働してつくりあげる首里のまち

①新・首里杜構想実現のためには長い歳月を要するため、国や県、市、まちづくり団体、住民等によるまちづくり協議会等をつくり継続的なまちづくり活動を推進する

②市民と行政が参画するまちづくり協議会等で出た課題について、県や市といった行政の枠を越え、横の連携がとれた体制をつくり対応する

③首里まちづくりに関する意識化を図るため、首里の歴史や文化等を学べる場をつくり、継続して復興に取り組める機会を設ける

④50年後の首里のまちを見据えた「首里まちづくり憲章（仮）」の策定

## 首里社会議からの提言（資料編）

「50年後、どんな首里のまちにしたいですか？」



2020年11月26日に首里公民館で開催した首里社会議



ワークショップの様子



各グループでディスカッションを行い発表

## 首里城復興基本方針 6「新・首里杜構想」による歴史まちづくりの推進

### (1)歴史を体現できる風格ある都市空間の創出

#### 地域からの提言【自然と歴史と文化が調和する風格あるまち】

##### ①首里城や玉陵、園比屋武御嶽石門等、復元整備された文化財同等の固有性を大切に した本物指向の建造物や工作物等の整備

1) 首里城公園並びに首里杜地区内の土木・建築物等の公共事業においては、整備後 50～100 年は再整備が望めないため、慎重かつ丁寧なプロセスが望まれる。整備対象が再現（復元含む）なのか、新設なのか整備の方向性を確認し、特に再現については専門委員会を立ち上げるなど、時代考証や固有性の確認などを行い、景観配慮や工法の選定など、本物指向の整備を行う必要がある。

##### ②首里城や首里八景からの眺望（歴史的風土保全地区内）を重視したまちなみや 風格あるスーヅグワの整備

1) 漢詩で詠まれた首里八景（情景）の心を第一義とし、文化的景観に配慮した整備を行う必要がある。

2) 龍潭越しから首里城を望む景観は、世持橋の再現や龍潭周辺樹木の整備をセットで行い、首里城と一体的な奥行き感のある風景を整え、御冠船ハーリーなど歴史を体現できる空間を創出する。



平成 24 年住まい・まちづくり担い手事業より

3) 崎山馬場通りの無電柱化や観音堂からの景観阻害要因となっている電線の移設、弁之御嶽までのアプローチ道路の石畳化、崎山竹林の再現、ニシムイからの眺望の確保など、風格ある整備を行う。

4) 首里城周辺スーヅグワの石畳化や屋敷囲いの石垣、緑化の推進など、城下まちと一体となった風格ある景観づくりを行う。



平成 24 年住まい・まちづくり担い手事業より

③地形・地質、水系、植生等を基盤にできた首里の歴史的環境を再確認し、特に水と緑の潤いが感じられる豊かな環境の整備

1) 首里城を中心とする首里歴史的風土保全地区は、地形・地質、水系、植生等を基盤とする首里の重要な歴史的環境となっているため、大規模開発の抑止や自然環境の保全、修景による整備を行う。

2) 民藝運動で知られる柳宗悦は、首里の印象を「日本第一の美しい都市」と表現し、さらに「自然と歴史と人文のかくもよく保存されている希有な存在」と評し、「真に生きた庭園の都市」、「人文の華を織りなした名園」と称賛しました。かつての水と緑あふれる潤いの感じられる環境整備を行う。

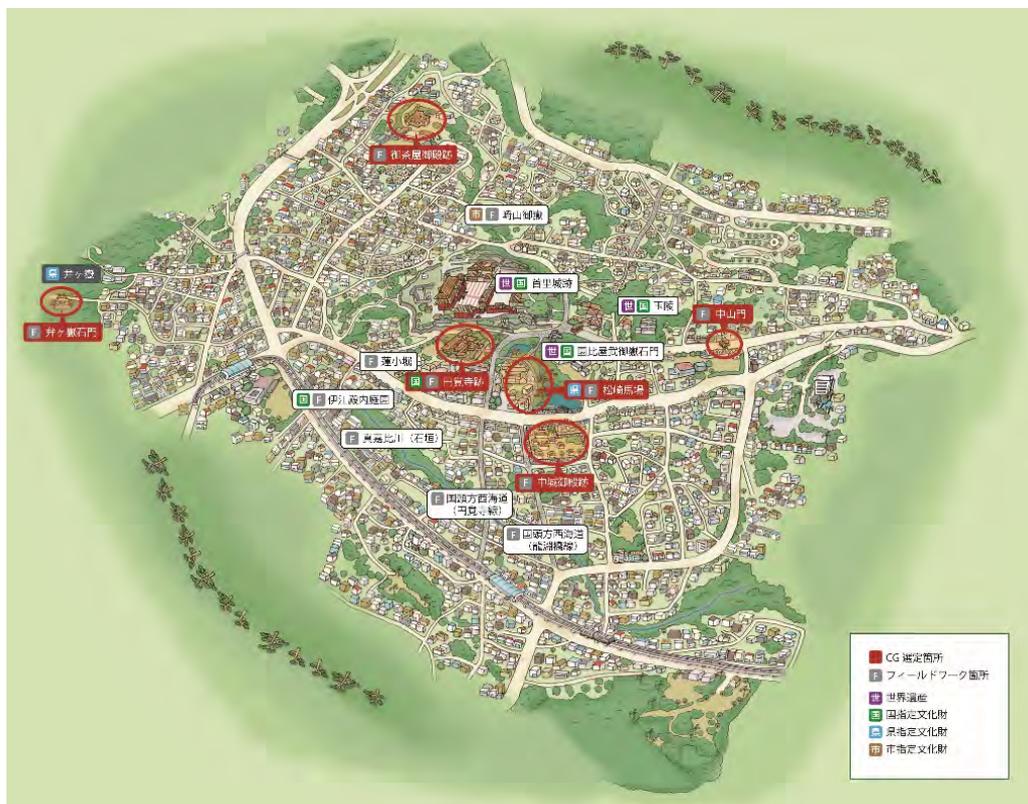


金城大樋川

首里城復興基本方針 6 (2) 首里城公園及び周辺地域の段階的整備

地域からの提言【首里杜地区を点ではなく面として周遊できる環境へ】

①中城御殿、円覚寺、御茶屋御殿、松崎馬場、中山門、弁之御嶽、伊江殿内庭園などの段階的整備のためのロードマップの作成



平成 24 年住まい・まちづくり担い手事業より

1) 琉球・沖縄の豊かな文化的景観を伝えるためには、首里城以外の歴史的に重要な文化遺産を再現する必要がある。沖縄振興計画等の財源に基づき、短期・中期・長期の段階的整備を行い、面的に周遊できる実施計画の策定が必要である。

<参考資料>御茶屋御殿の文化財指定と早期復元に関する要望

御茶屋御殿復元期成会

首里城復興基本方針の項目6「新・首里杜構想」による歴史まちづくりの推進 (2) 首里城公園及び周辺地域の段階的整備の中で、初めて御茶屋御殿について「…また、御茶屋御殿など地域に点在する文化資源について国や那覇市と連携の上段階的な整備に向けて検討を進めると共に…」が記載されたことは、御茶屋御殿復元期成会として感謝申し上げます。

御茶屋御殿の復元については、首里城復興基本方針の位置づけを基に、御茶屋御殿ワーキンググループ（内閣府沖縄総合事務局・沖縄県・那覇市）において、国・県・那覇市が一体となり具体的に復元の主体・役割分担・予算措置・手順・方法を協議して、「首里城復興基本計画」の短期（令和3/2021年度末）・中期（令和8/2026年度末の首里城正殿復元）・長期（令和13/2031年度末の第6次沖縄振興計画最終年）に年次的に確実に位置付け、文化財指定と早期復元を強力に推進することをお願いいたします。

なお、当会では文化財指定と早期復元の手順・方法として、以下を提案します。

①国の文化財登録（市は現存する石垣の調査・測量図と発掘調査資料を元に「カトリック首里教会移転承諾書」をふまえ、教会側の理解・同意を得て国に意見具申）（同時作業でカトリック教会の移転地を探す）

↓

②国の文化財指定（作業の進捗状況により指定申請）

↓

③都市公園整備としての事業認可（国土交通省の予算措置を要望）

↓

④首里城と一体化した「世界遺産登録」へ

## 御茶屋御殿とは



御茶屋御殿は、薩摩の在番奉行や中国の冊封使をもてなすために、尚貞王の命により 1677 年に琉球一の風光明媚な首里崎山町の地に造営された。冊封使を御茶屋御殿で供応接待し、和やかな雰囲気外交が行われたという記録が残っており、首里城と表裏一体の離宮であり、迎賓館であったと考えられている。歴代の冊封使は、御茶屋御殿が気に入り多くの文章や漢詩を残しています。創建当時の冊封使は、景色の素晴らしさを褒め「中山第一の景勝なり」といい「東苑」と名付けた。

御茶屋御殿では、当代第一の学者や芸能家など文化人を集めて、御座楽・歌三線・踊・組踊・唐踊・能・謡・茶道・華道・漢詩・和歌・琉歌・囲碁・象棋（チュンジー）・唐手等一流の文化人にその技を披露させ、王が照覧したと伝わる。御茶屋御殿は首里城と並び、質の高い琉球文化が生まれた発祥の地、文化の殿堂であったと言える。

また、琉球建築としても格式の高い建物で、昭和 6 年、旧国宝保存法の諮問機関である国宝保存会の幹事であった阪谷良之進氏は沖縄県下の重要建造物の国宝指定をするため詳細に調査し、御茶屋御殿を「国宝指定の第一候補」と位置付けた。沖縄戦で失った御茶屋御殿を再建し、文化の殿堂を復活させることは、琉球文化の継承と振興には欠かせないという信念のもと、御茶屋御殿復元期成会では各種要請活動を続けている。

②旧国宝や県・市指定文化財、その他の地域文化財などの整理を行い、文化財や遺跡などの保全や整備、活用方法についての検討

- 1) 旧国宝を含む首里地区の歴史・文化資産の保全は早急の課題となっており、実情に応じた整備を行い、首里城を中心とする周遊環境の整備を行う。
- 2) 歴史・文化資源は人の営みの上になりたつものであるため、文化財を活用した行事や地域利用の促進を図る。

③染物や織物、泡盛、琉球菓子等、王朝時代から連綿と続く伝統産業に子どもをはじめ、県民や観光客が直に触れることのできる文化を楽しめる拠点の整備

- 1) 染物や織物、泡盛、琉球菓子などは首里で生まれ、育まれて地方へ変化しながら広がったものである。身近にある伝統産業に触れられる環境をつくることは、伝統文化の回復や保存継承、産業振興につながるため、歴史的・文化的まちづくりの推進となるような拠点の整備を図る。
- 2) 沖縄県立芸大や首里高校、伝統産業事業者などとの連携により、本物指向のここでしか体験のできない地域独自のまちづくりを行い、子どもから大人まで住んでいる人が誇りに思える環境の整備を行う。

<参考資料>首里地区の歴史・文化資産一覧表（旧国宝を含む）

復元整備および公開が待たれるものは太字で表示しています。

F W：首里まちづくり研究会によるフィールドワークの結果

△現存する資産（教育施設用地、私有地にある資産、資料等に乏しく全様の把握が困難な施設は対象外）

★首里杜構想の実現に向けて、首里の風致景観として重要である。

◎旧国宝に指定されていたが、復元されていない。

■国・県・那覇市指定文化財だが復元活用に乏しい。

▲復元継続中の資産

A 旧国宝（17件）

	名称	創建年	指定年	概要	現状	F W
1	首里城 正殿	1712	大正 14	木造	戦災滅失、1992 年復元、2019 年焼失	▲
2	首里城 守礼門	1529	昭和 8	木造	戦災滅失、1958 年復元	△
3	首里城 歓会門	1477	昭和 8	門石造アーチ、櫓木造	戦災滅失、1974 年復元	△
4	首里城 瑞泉門	1470	昭和 8	門石造、櫓石造	戦災滅失、1992 年復元	△
5	首里城 白銀門	尚真王代	昭和 8	石造	戦災滅失、1999 年復元	△
6	円覚寺 総門	1494	昭和 8	木造	戦災滅失、1968 年復元	△
7	円覚寺 右掖門	1494	昭和 8	石造	戦災滅失、1968 年復元	△
8	円覚寺 左掖門	1498	昭和 8	石造	戦災滅失、1968 年一部復元	△
9	円覚寺 放生橋	1494	昭和 8	石造	戦災破壊、1967 年修復	△
10	円覚寺 山門	1494	昭和 8	木造	戦災滅失	★◎
11	円覚寺 仏殿	1494	昭和 8	木造	戦災滅失	★◎
12	円覚寺 龍淵殿	1494	昭和 8	木造	戦災滅失	★◎
13	円覚寺 鐘楼	1494	昭和 8	木造	戦災滅失	★◎
14	円覚寺 獅子窟	1494	昭和 8	木造	戦災滅失	★◎
15	園比屋武御嶽 石門	1519	昭和 8	石造	戦災破壊、1956 年修復	△
16	弁ヶ嶽 石門	1519	昭和 13	石造	戦災破壊、1954 年コンクリート造の仮門建設	★◎■
17	末吉宮 本殿	1456 頃	昭和 11	木造	戦災滅失、1972 年復元、1999 年拝殿復元	△

## B 世界遺産

	資産種別	国内指定区分	名称	創建年	登録年	現状	FW	備考
1	記念工作物	重要文化財（建造物） 記念物（史跡）	園比屋武御嶽石門	1519	平成 12	戦災破壊、 1956 年修復	△	説明板有り
2		重要文化財（建造物） 記念物（史跡）	玉陵	1501	平成 12	戦災破壊、 1977 年修復	△	説明板有り
3	遺跡	記念物（史跡）	首里城跡	1360	平成 12	戦災滅失、 1992～2019 年復元	△	説明板有り

## C 国宝（1 件）

		種類別	名勝	創建年	指定年	現状	F W	備考
1		建造物	玉陵	1501	平成 30	戦災破壊、 1977 年修復	△	説明板有り

## D 国指定文化財（10 件）

分野：記念物

	種類等	名称	創建年	指定年	現状	F W	備考
1	名勝	伊江殿内庭園	不明	昭和 61	調査中	★■	仮設説明版有り
2		首里城書院・ 鎖之間庭園	1628	平成 21	戦災滅失、2008 年復元、 2019 年火災で建造物は焼 失、庭園は一部損壊	▲	
3	史跡	円覚寺跡	1494	昭和 47	山門復元決定、他は調査中	★■	旧国宝含む施 設の復元
4		首里城跡	1360	昭和 47	1992～2019 年復元	▲△	説明板有り
5		玉陵	1501	昭和 47	戦災破壊、1977 年修復	△	説明板有り
6		末吉宮跡	尚泰久王代	昭和 47	戦災破壊、1972 年本殿復元	△	
7	天然記念物	首里金城の大 アカギ	樹齢 200 年 以上	昭和 47	現存	△	仮設説明板有 り

分野：有形文化財

8	建造物 (橋梁)	旧円覚寺 放生橋	1498	昭和 47	戦災破壊、1967 年修復	△	
9		天女橋	1502	昭和 47	戦災破壊、1969 年修復	△	
10	建造物 (その他)	園比屋武御嶽 石門	1519	昭和 47	戦災破壊、1956 年修復	△	仮設説明板有 り

E 県指定文化財（9件）

分野：有形文化財

	種類別	種別	名称	創建年	指定年	現状	F W	備考
1	建造物	寺院建築	旧円覚寺総門	1494	昭和 47	1968 復元	△	説明板有り
2		城郭建築	旧首里城守礼門	1529	昭和 47	1958 復元	△	説明板有り
3		橋梁	龍淵橋	1494	昭和 34	欄干無し	△	
4			末吉宮磴道	尚泰久王代	昭和 31	現存	—	
5	彫刻		木彫円覚寺白象		昭和 31	博物館で保存	—	
6			世持橋勾欄羽目		昭和 31	博物館で保存	—	
7			円覚寺放生池石橋 勾欄	1498	昭和 31	戦災破壊、1967 年修復	—	
8			玉陵石彫獅子	1501	昭和 31	現存	—	

分野：記念物

4	史跡		園比屋武御嶽石門	1519	昭和 30	戦災破壊、1956 修復	△	説明板有り
5			龍潭及びその周辺	1427	昭和 30	1991 公園整備	△	説明板有り
6			弁ヶ嶽	1519	昭和 31	戦後コンクリート造の仮門建設	★◎■	
7			首里金城町石畳道	1522	昭和 39	現存	△	説明板有り
8			国学・聖廟石垣	1802	平成 5	一部現存	△	
9	名勝		首里金城町石畳道	1522	昭和 39	現存	△	説明板有り

F 那覇市指定文化財 (21 件)

	分野	名称	創設年	指定年	現状	F W	備考
1	建造物	読谷山御殿の墓		昭和 59	現存	△	説明板あり
2	有形民俗	安谷川嶽	1814 大改修	昭和 52	現存	△	説明板あり
3	有形民俗	内金城嶽	12 世紀以前	昭和 53	現存	△	説明板あり
4	有形民俗	旧御茶屋御殿石造獅子	1677	昭和 61	移設現存	△	説明板あり
5	史跡	雨乞嶽	不明	昭和 51	現存	△	説明板あり
6	史跡	宜野湾御殿の墓及び墓域		昭和 51	現存	△	説明板あり
7	史跡	宝口樋川	不明	昭和 51	現存	△	説明板あり
8	史跡	金城大樋川	不明	昭和 52	現存	△	説明板あり
9	史跡	仲之川	不明	昭和 52	現存	△	説明板あり
10	史跡	安谷川	不明	昭和 53	現存	△	説明板あり
11	史跡	寒水川樋川	不明	昭和 54	現存	△	説明板あり
12	史跡	ヒジ川ピラ	16~17 世紀	昭和 54	現存	△	説明板あり
13	史跡	崎山御嶽	不明	昭和 61	石門を戦後コン クリートで建設	★■	説明板あり
14	史跡	新垣ヌカー	不明	昭和 63	現存	△	説明板あり
15	史跡	上ヌ東門ガー	不明	昭和 63	現存	△	説明板あり
16	史跡	下ヌ東門ガー	不明	昭和 63	現存	△	説明板あり
17	史跡	加良川 (取付道路を含む)	1759 以前	平成元	現存	△	説明板あり
18	史跡	さくの川	不明	平成 2	現存	△	説明板あり
19	史跡	旧天界寺の井戸	1697	平成 6	現存	△	説明板あり
20	史跡	美連嶽	1660 年代	平成 10	拝殿戦災滅失	△	説明板あり
21	史跡	火立毛	不明	平成 10	現存	△	説明板あり

## 地域からの提言【渋滞のない、住民にも観光客にもやさしく、歩きやすいまち】

### 前提として、観光バス駐車場代替地の確保

提言を実現させるには、渋滞の要因となっている首里城レストセンター地下の駐車場に代わる代替地の確保が前提になると考えています。なぜなら、首里城公園入場のピーク時にはこの駐車場が満車となり、ここに入りたいバスが路上で客を降車させることが渋滞の原因になっていると考えられるためです。



↑ 渋滞のため緊急車両の通行が困難



↑ 駐車場に入れず路上で観光客を下ろす

現状で地下駐車場を効率的に運用・平準化しようとする、1台あたりの駐車可能時間をタイトに運用しなくてはならず、歩いて首里のまちを周遊してほしいという地域の提言とは相反が起きます。

代替地が担保されないと、提言の内容は実現可能性が著しく下がってしまうという懸念があるため、沖縄県ならびに那覇市には、現在の地下駐車場以外の場所を確保してくださるようお願いいたします。首里社会議では、県有地である農業試験場跡地は広さと首里城までの距離を考慮して適地だと提言します。

### ① とにかく歩行者優先、安心安全歩いて楽しいまちづくりを目指す

首里地域の観光まちづくりに大きな効果をもたらすには、首里城ピンポイントのクルマによる観光スタイルを首里城周辺歩行周遊型に変え、車両による短時間、一度限りの駆け足訪問でなく、ゆっくりと何度も訪問しながら歩いて散策し、首里の歴史文化を満喫できるスタイルへの刷新が必要。今後復元が計画（予想）されている拠点間の移動を、歩行を前提とした、歩道や緑陰等の整備を計画したい。この整備は地域住民にも享受され、子どもたちをはじめとして多くの住民の安心安全の担保になると考える。

## ② 免許返納時代に対応した交通福祉ニーズに応えるために、新しい交通手段も活用した交通特区の検討

細街路と坂道が美しいまちなみが特徴の首里杜地区で、子どもたちの安心・安全、高齢者の移動、来訪者の利便性を担保するには、この特徴に最適化された新しい手段の検討も必要。観光課題と地域課題の両方を解決するソリューションとして、交通特区導入の検討を。首里杜地域は高齢化率が高く、38%を超える字も見受けられる。このエリアは10年後には数百人の免許返納者が出ると予想されるため、高齢者の移動、特に、買い物や通院が大きな地域課題となる。そこで首里城を中心とした拠点間の移動を、観光客の方々も地域住民も使用可能な小型で小回りがきき、歩行者とも共存できる、自動運転等のローコストなモビリティのモデル地域としてテストできる環境を施策化いただきたい。

## ③ 首里のまちのキャパシティはどれくらいが適切なのかしっかり調査を

2019年は、押し寄せる来日観光客で多くの観光地がオーバーツーリズムに悩まされた。沖縄県にも1千万人の観光客が来訪し、宮古島においては住民生活へのしわ寄せが大きな地域問題となった。首里のまちにとって、首里城が復興し中城御殿及び円覚寺の復元、御茶屋御殿等の文化財の復元がどのような意味を持ち、首里の住民にとってどのような観光地にしたいのか、どのような客層に来ていただくのか等、十分な検討と科学的数値の積算が必要である。そもそも、首里杜構想の大きな柱の一つは、首里城の復興と周辺文化財の復元により、「格調高い古都首里のまちのたたずまいを形成し、歴史や琉球文化を体現できる都市空間の創出を図る」のはずである。その理念を地域住民もまた観光客も継続維持できるまちづくりを念頭に首里の観光客キャパシティを考えるべきである。特に、この地域は小学校をはじめとする文教地域でもあるため、膨大な歩行観光客の往来による地域住民との軋轢があってはならない。適正な入域観光客数を想定することが必要であろう。

## ④ 渋滞の原因を調査し、住民による自治でできることは住民で対処

観光由来と思われる渋滞はもちろん、通過交通や地域生活に由来する渋滞も確認されている。まず渋滞の原因を精査し、地域以内で発生する渋滞については地域で原因を解明し自治の力で解決できるような手法も検討したい。官民協働による課題解決をめざすための行政側の制度の柔軟な運用の議論をしたい。

<参考資料>



## ★首里社会議が提案する新項目★

### (4)情報発信・情報共有

## 地域からの提言【今後のまちづくり全般にICTが盛り込まれた環境へ】

### ①首里地域の周遊にICTを活用し首里を堪能しよう

#### 1) 首里城復興基本計画にスマホ・インターネットの活用を盛り込む

首里城復興基本計画策定に当たっては、基本方針にある首里地域（首里杜地区）における風格ある歴史的風致を体現するため、今やだれでも持っているスマホおよびインターネットの利活用を考えて策定していただきたい。その際にはぜひVR・ARを取り入れていただきたい。

日本では携帯電話をほとんどの方が持っており、パソコン・スマホなどインターネットに接続する端末の利用率は、50歳未満で80%を超え、60歳代でも60%程度である。

首里を訪れたい、訪れた訪問客にインターネットを通じて首里城周辺の情報を提供する仕組みが必要である。

- ・パソコン・スマホで首里に観光に来る前の事前学習
- ・首里に来た時はスマホで歩いて周遊のお手伝い、学習
- ・再来訪のためパソコン・スマホで学習

### ②今見えてきたこと・・・ICTでは、50年後の技術革新は見通せないが、使っていこう

#### 1) これまでの「見る・聞く」から「体感」への時代を迎えている。

これまでの技術では、5感の視覚・聴覚・触覚・味覚・嗅覚の内、視覚・聴覚しか使っていない。しかし、触覚・嗅覚に関しては展望が少々見えてきており、スマホでもやがてできるようになる。歴史的な建造物、文化財に触れた手触りの感触を伝えたり、美術工芸品にも触れる感触がつかめるようになり、琉球料理の匂いを感じたり、三線・琉球琴などの試し弾きや踊りも可能となるという将来像をふまえた上で、実用化された技術を使っていくという発想が必要である。

### ③「新・首里杜構想による歴史まちづくりの推進」、「歴史の継承と資産としての活用」

#### 1) ICTで首里を体感しよう

首里城を中核とする首里杜地区において、歴史を体現できる風格ある都市空間の創出、周辺地域の段階的整備ができた風景を最新技術のVR/ARにより3次元で再現し、近い将来は、周遊される訪問客に視覚・聴覚に加え文化財の材質などに触れて手触りをも確認し、「体感」してもらうための基礎づくりを。

A R グラスの一例



- 50年後どんな首里になっているか、AR/VRで提供可能と想定できるコンテンツ例
  - ・首里城焼失の歴史（沖縄戦も含む）そして再興（琉球大学を含む）
  - ・首里城、首里八景等から見た眺望の映像・・・改善する箇所の確認
  - ・首里杜地区で段階的整備が検討されている文化財などの風景の映像
  - ・戦前の御殿・殿内が広がる首里ニシカタの情景、現在、復興された映像
  - ・首里杜地区で起こった歴史上の出来事の映像化・・・ペリー提督の行進、冊封使行列など
  - ・首里の文化・・・祭り(旗頭、獅子舞などを含む)、踊り、三線、民謡、空手・古武道、ウマハラサーなど（ど真ん中で参加している気分が味わえる）
  - ・それぞれの地域で昔から行っている祈願祭、清明祭など

(参考)NHKでは、従来の番組を超えた、“NHK VR/AR”の番組を公開しており、今やVR/ARは時代の潮流となってきている。

<https://www.nhk.or.jp/vr/>

加えて、GPS・5G(使い放題の期待)などを利用すれば、周遊されている訪問客に的確にタイムリーに首里を体感していただける。

## 2) 首里の文化を鑑賞・楽しむ拠点が欲しい

首里杜地区に文化を鑑賞・楽しむ拠点を設け、実演時間以外もICTで様々な首里の文化を体感できるスペースを設けて欲しい。

端末を持っていない訪問客には、例えば、歴史を体現できる風格ある都市空間の創出、周辺地域の段階的整備ができた風景を最新技術のVR/ARにより3次元で再現し、周遊される訪問客にこのスペースで視覚・聴覚に加え文化財の材質などに触れて手触りを含め確認し、「体感」してもらいたい。

## ④当面、想定されるICT活用例

### 1)交通環境の整備…歩いて周遊する来訪者に情報を提供

- ・回遊性の高い快適な歩行空間を提供し、地域住民と訪問客が共用できる交通システムで利便性の向上と充実を図り、ハード・ソフト両面からまちの魅力を伝える取り組みを展開することが望ましい。
- ・来訪者は、スマホを持っている方がほとんどと考えられる。
- ・来訪者は、モノレール、バス、レンタカーで首里に来られ、下車後にスマホやパンフレットの情報を見ながら歩いて周遊すると想定される。

- ・来訪者が下車されると想定される箇所には案内板を設け、QRコードを表示してスマホで道案内や名所旧跡情報などを見られる仕組み・整備が必要である。
- ・ポストコロナの時代を見据え、多言語対応が必要である。
- ・このように、首里杜地区の整備された魅力あふれる観光資源（VR/ARで再現）・風格ある歴史的風致をスマホで体現してもらう仕組みを作っていただきたい。
- ・位置情報の活用や5Gを想定する必要がある。

<参考資料>QRコードを表示している現状。小さくて見えにくいものが多い。



モノレール駅のQRコード



案内板のQRコード

## 2) 次世代を担う子どもたちへ首里を身近に感じてもらう

- ・ウィズコロナ・ポストコロナ時代では学校を始め、ICT環境が整備され、対面指導・家庭・地域社会が連携したオンラインとオフラインが混在する学びへの変化が言われている。この環境を体験できる場の提供やこれらのICT環境に対応した地域学習やイベントもよいのではないか。
- ・子どもたちは、ゲームなど映像に親しんでおり、VR・ARを活用した首里を学ぶ学習素材も作成していただきたい。

⇒「私たちは首里の子どもでよかった」という特別感の提供、提供内容に首里城・文化を絡めることで次世代継承につながる”の想いに活用できるのではないか。

## 首里城復興基本方針7 歴史の継承と資産としての活用

### (1)多様で魅力ある観光資源の活用

#### 【地域からの提言】

#### 地域の歴史と伝統文化を体感できる整備で、住民と訪問者双方が満足するまち

##### ①アフターコロナの時代を見据えた市場調査の上で、

##### エビデンスに基づいたハード面・ソフト面を含めた総合的な環境整備の検討

1) 今後、観光のあり方そのものが変わろうとしている。また、情報発信の手法も、幅広くやみくもに行うのではなく、訴求したい層へピンポイントで行うターゲティングが普通になるだろう。周遊を促す情報発信も、「誰に」「どのように」行うかを考えるには、まず根拠となる市場調査を行うべき。根拠に基づき、ハード・ソフトの両面から環境整備を検討していただきたい。

##### ②歩道や街路樹、東屋や屋根付きバス停、ポケットパーク（小広場）など

##### 周遊性の向上を考慮したハード整備

1)実際に首里を30分ほど歩いてみれば、ちょっと座って休める場所の少なさに気づく。歩いて楽しむ周遊コースを提唱するにも、観光の拠点をつないで示すだけでは不十分。どのあたりに、どのようなものが整備されていれば快適なのか、観光と福祉の視点で調査することから始める必要がある。

2)特に龍潭通りはまだ工事中の箇所があり、車いすやベビーカー、高齢者にはバリアフリーとはほど遠い「バリアフル」な状態になっている。観光客だけでなく、住民も、誰もが歩きやすいまちにするには、ユニバーサルデザインの観点からもチェックが必要。

##### ③適正な入域者数コントロールと「首里に来れば本物に触れられる」という質の高い体験ができる場づくりで、満足度とリピート率の向上を

1)観光がモノからコトへと移行しつつあることは周知の事実。より質の高い体験ができる場をつくることは、満足度＝リピート率の向上に直結する。これまで何かと制約の多かった首里城公園の運用、利活用を見直すようお願いしたい。また、今後、段階的に整備される中城御殿なども、単に建物や展示を見せるだけの施設ではなく、柔軟な運用ができるような制度設計を行うことで来訪者・住民とも利用しやすい施設にして、ハコモノ行政から脱却した「拠点づくり」を目指していただきたい。

2)交通問題とも関連して、適正な入域者数コントロールを

**【地域からの提言】 首里城をこころから誇りに思える機会の創出を**

**①国・県・市・首里城公園指定管理者・地域の5者で、次世代継承に関する協議の場を定期的に設ける**

施設の管理が国、県、市、その中でも公園や文化財、道路などで分かれており、地域住民による部署横断的な利用の調整は困難である。地域住民の生活と観光のはざままで起きる諸課題について、同じテーブルで協議する場が欲しい。また、子どもたちの通学路となるエリアや、放課後や休日に余暇を過ごす場所、様々な地域行事を行う場として、首里城周辺の施設には大きな可能性がある。単体の窓口を超えて、包括的に考えて、柔軟に連携できるように、地域の声が直接届く機会の創設を求めます。

**②首里杜地区にある文化財に関して、子どもたちも利用しやすいように県民割などを導入し、地域での活用促進を促す。**

文化財を公開することに加え、利用することを前提に取り組みを進めてほしい。地元の子どもたちが家庭の経済状況に気兼ねすることなく親しめる文化財であってほしい。例えば、有料の施設については県民割引を設定するなどし、子どもたちも気軽に利用できるようにしてほしい。そうすることで、幼少から慣れ親しんだ場所として記憶され、潜在的な郷土愛へとつながることを期待したい。地元の人々にどれだけ愛され、受け継がれていくのかについては、歴史教育のような知識以前に、直に触れる機会を作る必要がある。身体がそこに在るという記憶を積み重ねることで、言葉ではない確かな感覚として“私たちの”文化財になっていくと考え、文化財の活用促進を求めます。

**③地域の団体等と協力して、子どもたちの体験の機会を創出してほしい。また、教育や遊びの中で地域の芸能・芸術・工芸等の文化にふれる機会を作れるよう学校等の教育機関にも積極的に関わってほしい。**

住む地域に誇りを持つには、知ることが大切である。知るためには、知る意欲を刺激する機会が必要となる。それは芸術文化団体、サークルはもちろんのこと、地域コミュニティが設ける場合や、教育の中で出会う場合などが考えられる。また、沖縄県立芸術大学や県立首里高校など専門性の高い教育を実施する学校等と、地域のこどもたちが芸能や芸術等の文化を介して交流することは、身近な先輩を通して文化に触れることにより、後継者育成にもつながるものと考えられる。芸能を体験し、工芸品を使用し、芸術を体験、鑑賞するなど、教育や遊びの中に多くの機会の創出があってはじめて、地域に興味を持ち、奥深さを知り、誇りに思う。首里城復興の機運が高まる中で、自らの足元を見直す機運も同時に高まっており、普及に向けた様々な活動が模索されることを求める。



**円覚寺** 1494年創建の第二尚氏王統歴代国王の菩提寺。1933(昭和8)年に総門、山門、仏殿等計9件が旧国宝に指定されたが、すべて沖縄戦で破壊された。現在は総門とその両側の石垣、右扇門、放生池が復元されている。(画像提供:首里まちづくり研究会)

**弁之御嶽**  
国家祭祀の聖域。1519年に建立された石門は沖縄戦で大破。戦後、石門を模したコンクリート製の門が有志により建立。2013年度に那覇市が拝殿跡を発掘し、2018年に国の史跡名勝天然記念物に指定された。(画像提供:首里まちづくり研究会)

歴史をふり返れば  
未来が見える

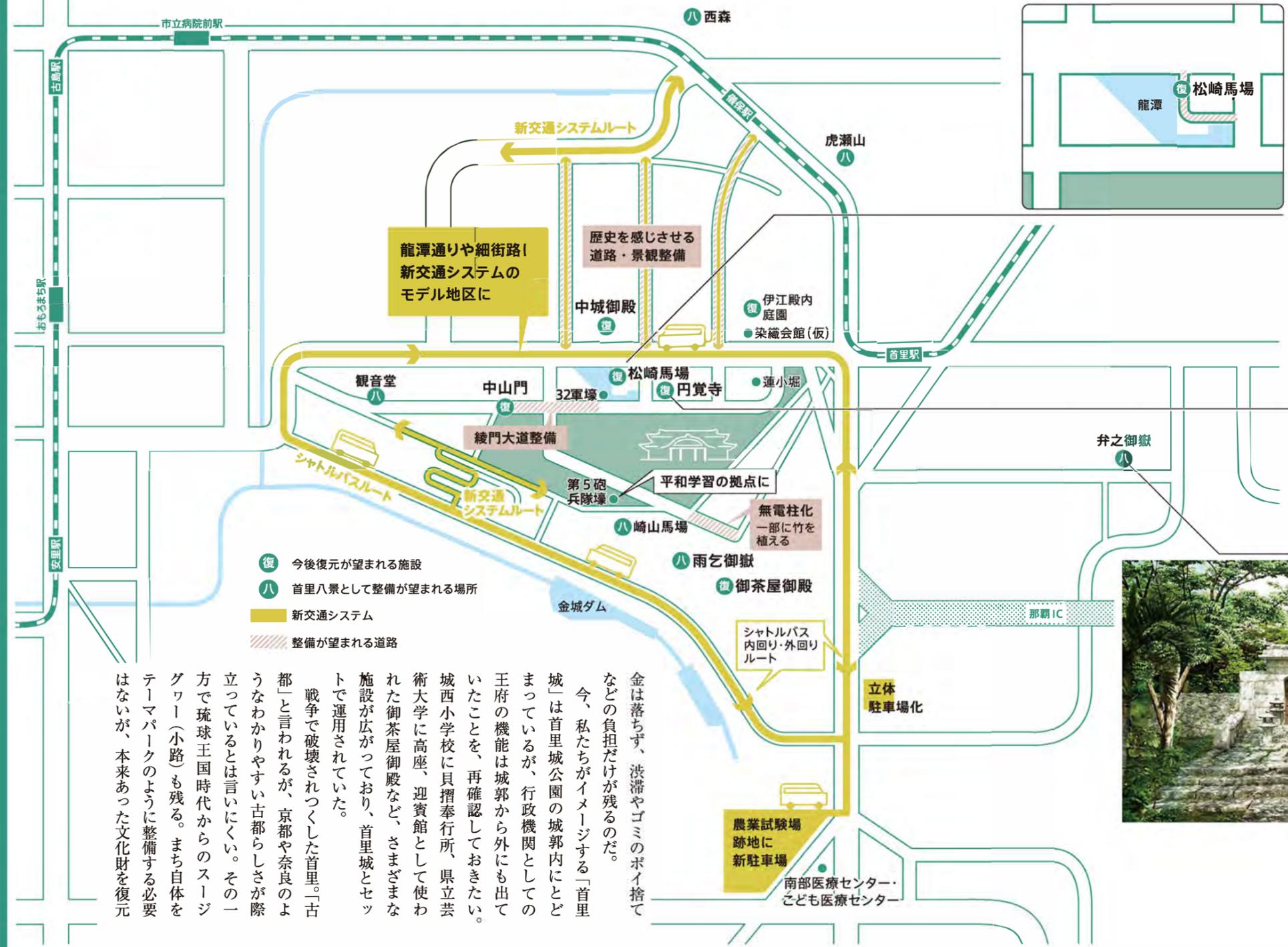
首里まちづくり  
温故知新  
みらいMAP



戦前、旧国宝に指定された文化財は首里だけで17件もあり、京都や奈良に次ぐ多さだったという。文化を外交のツールとしていた琉球の王都だったことを考えれば当然だ。戦争で失われたそれらを復元したら、歴史を感じさせる風格ある景観をつくったら、首里はどうなるだろうという空想をいい大人たちと一緒にくり広げてみた。

復元・整備をすることで  
歩いて楽しめるまちになる

首里地域で課題だと考えられていることの一つに、首里城公園への直行直帰型観光がある。首里城に行く観光客の多くは、レンタカーや観光バスで地下駐車場に直行し、首里城を見たら、また次の目的地へと向かう。観光客が首里のまちを散策することは少なかった。モノレールで来る人も大差ない。年間約250万人が訪れる観光地でありながら、観光客向けの門前町的な商売が多いとは言えないことが、その実情を物語る。地元目線で見れば、地域に大したお



- 復 今後復元が望まれる施設
- 八 首里八景として整備が望まれる場所
- 新交通システム
- 整備が望まれる道路

金は落ちず、渋滞やゴミのポイ捨てなどの負担だけが残るのだ。今、私たちがイメージする「首里城」は首里城公園の城郭内にとどまっているが、行政機関としての王府の機能は城郭から外にも出ていたことを、再確認しておきたい。城西小学校に貝摺奉行所、県立芸術大学に高座、迎賓館として使われた御茶屋御殿など、さまざまな施設が広がっており、首里城とセットで運用されていた。戦争で破壊されつくした首里。「古都」と言われるが、京都や奈良のようにはわかりやすい古都らしさが際立っているとは言いがたい。その一方で琉球王国時代からのスージグワー(小路)も残る。まち自体をテーマパークのように整備する必要はないが、本来あった文化財を復元

し、ポイントとポイントを結んで歩きやすく整備するなどのハードと、新交通システムやICTを活用した情報発信、イベントなどのソフトを組み合わせることで、住民も来訪者も歩いて楽しめる首里へと変わるだろう。地域の期待も大きい。自身も長年観光に携わってきた、前述の奥儀さん(古都首里のまちづくり期成会)は言う。「これまでのように質より量という観光では立ち行かなくなる。地域の負担も少なく、持続可能な観光、今の言葉で言うサステイナブル・ツーリズムが求められるのではないのでしょうか。客単価が上がれば入城者数が減ってもそれが実現できる。また、アフターコロナの時代に沖縄の観光が目指す方向性は何かという視点も必要です」



首里城公園とは異なる活用が可能になる

# 中城御殿

なかぐしくうどうん



①城西小学校側の龍潭湖畔から中城御殿を見た復元CG(画像提供:首里まちづくり研究会) ②1950~54年まで西側に首里市役所が置かれ1956年に那覇市と合併後は首里支所に。1965年からは琉球政府立博物館があった。写真は琉球政府立博物館落成式の日撮影(沖縄県公文書館)



眺めも立地も一等地！  
琉球文化を発信する  
拠点として期待

1875年に、首里高校の場所から現在の龍潭前に移った中城御殿。琉球国王世子(世継ぎ)の邸宅で、いわゆる琉球処分直後、尚泰王はここへ移り、一時的に暮らした。戦前、首里の人々は中城御殿前を通る時は必ず一礼したという。戦後は首里市役所や琉球政府立博物館の敷地として利用され、沖縄県立博物館の移転後は発掘調査が行われた。首里城火災を受け、基本設計で停滞していた中城御殿の復元事業が動き始めている。古都首里のまちづくり期成会の仲里朝勝さんは言う。

「首里城周辺には復元や整備が待たれる文化財や史跡がたくさんあります。中城御殿はその中の一つ。首里大中町の住民としても、復元事業

## 古都首里のまちづくり期成会の皆さん



與儀 毅さん

仲里 朝勝さん

には大いに期待しています」

沖縄県では龍潭側に木造の完全復元エリアを設け、奥のほうに躯体を鉄筋コンクリートで作った外観復元の建物を配置し、収蔵庫や展示スペースとして使う構想がある。與儀毅さん(同期成会)は「首里城公園は何かと制約があって、MICEなどに活用するのも難しいのが現状です。県営公園となる中城御殿では、収蔵庫や展示スペースも良いんだが、ぜひ柔軟な活用ができればいいな」と思っています。

「特に上の御殿(小高くなっている場所)から、龍潭ごしの首里城の眺めは素晴らしい。昼間も良いが、夜間ライトアップされた首里城は格別です。眺望を妨げる建物が建たないように、隣接する土地を県が買い取ってくれたらいいんですが」と言葉を続けた。

「首里城」へのアプローチが変わる

# 中山門

ちゅうざんもん



①中山門の復元想像図CG(画像提供:首里まちづくり研究会)。首里高校の西側にあった。実際に復元すると車両通行をどうするかなどの技術的な課題はある ②香粉(こーぐー)舗装の再現実験は配合を変えて何パターンも試した。写真は男子が乗っても割れないほど丈夫になったという様子 ③戦前の首里を知る吉田朝啓さんに綾門大道について話を聞く小野准教授と新垣翔也さん



中山門↓守礼門の  
流れがよみがえる

尚巴志が国王だった1428年の創建とされる中山門。約100年後に建立された守礼門とは双子のような存在で、中山門は下の綾門(ういぬあやしろ)守礼門は上の綾門とも呼ばれ、二つの綾門の間を結ぶ道は「綾門大道」と呼ばれた。ところが中山門は1908年、老朽化を理由に取り壊されてしまう。

「綾門大道は琉球絵画にもよく描かれた首里城へのアプローチであるにも関わらず、中山門が取り壊されてからは存在感を失います。1921年、当時皇太子だった昭和天皇が沖縄に来られた際には、由緒ある綾門大道は通らず、龍潭通りを通じて中城御殿で休憩してから首里城へ向かっているんですよ。この頃、メインストリートとして

の存在感を失っていたと考えられます」と語るのは琉球大学の小野尋子准教授だ。綾門大道は琉球最古の舗装道路でもあった。琉球石灰岩を砕いた粉にタブノキやネナシカブラなどの樹液を混ぜ、漆喰のような状態にしたもので舗装したという。小野ゼミでは、この舗装を再現する実験も行った。

「中山門をくぐったら、他とはまったく違う舗装道路になる。実際に石粉舗装を作って、こういう空間があるのは魅力的だっただろうなと思いました。」(陸さん)

国王は冊封使を守礼門の前で出迎えたという。当然、外交上の効果も狙ったはずだ。

「中山門を復元して、ぜひ綾門大道も整備してほしい。『ここから先が首里城エリア』という領域性が一目瞭然になれば、当然、人の流れも変わります」(小野准教授)

## 琉球大学 小野ゼミの皆さん



小野 尋子 准教授  
新垣 翔也さん  
陸 聖仁さん



龍潭を一周できれば  
人の流れは変わる

# 松崎馬場

ましまちづくり研究会



①世持橋(龍潭から水を排出する水路の上にあった橋)の欄干復元と松崎馬場整備想像図のCG(画像提供:首里まちづくり研究会)。画像左半分の松の木が植えられた部分が松崎馬場  
②年に一度、城西小学校区まちづくり協議会が主催する「龍潭を楽しむ会」。子どもたちと一緒に清掃をして古老に昔話を聞いたりする



中頭方西海道、国学跡、歴史散策コースにも  
1427年に造成された人工池、龍潭。松崎馬場はこの龍潭に面して、県立芸大敷地から龍潭に突き出た岬のようになっていて、部分にかつてあった広場だ。元々は首里城から浦添グスクに向かう中頭方西海道沿いに整備され、松並木が美しくなったことから「松崎」という名前がついたという。  
「かつて、冊封使をもてなす重陽の宴では龍潭に舟を浮かべてハーリーが行われたそうです。その時に見物用の棧敷が設置されたのが松崎馬場なんですよ」  
と話すのは首里まちづくり研究会副理事長の恩河稔さん。

名前の由来になった松は、1801年に琉球の最高学府である国学が現在の県立芸大の敷地内に  
移った際に植えられた。1837年には首里聖廟(孔子廟)も設置され、これらの石垣は県の指定文化財(史跡)となっている。  
「今、危険箇所があるとのことで、残念ながら龍潭のほとりを一周することはできません。首里城久慶門から中城御殿までの道と松崎馬場を整備して、国学・首里聖廟の石垣も見学できるようにすれば、観光客が中城御殿に行くルートになるし、地元の人々のウォーキングコースにもなる。もし何か遺構を傷つける可能性があるなら、例えばウッドデッキみたいな仮設のルートを作る方法もあると思うんです。本当は世持橋の欄干も復元してほしいけれど、まずは松崎馬場と龍潭一周ルートの確保から。松崎馬場が整備されたら龍潭での御冠船ハーリーを復活させたいなど、夢が広がりますよね。」

NPO法人  
首里まちづくり研究会



副理事長 恩河 稔さん

歩いて楽しむ  
首里の魅力  
あふれる拠点に

# 御茶屋御殿

うちやうどうん



①御茶屋御殿の復元CG(画像提供:首里まちづくり研究会)。現在、土地は首里カトリック教会が所有している。「首里地域に教会と幼稚園が移転可能な代替地が用意できれば、移転を検討しても良いとのことです」(大城さん)  
②2014年3月、当時の文化庁長官 青柳正親氏に復元を求める要請活動を行った



琉球文化の発信地として  
幅広い利活用を  
御茶屋御殿は、薩摩の在番奉行や中国の冊封使をもてなすため、1677年に首里崎山町に造営された。主に迎賓館のような役割を果たし、眺望などを気に入った冊封使が漢詩などを多く残している。「御茶屋御殿に文化人を集めて、歌三線や琉球舞踊、組踊、能、謡、茶道、華道、和歌、琉歌、空手などを披露させ、国王自ら照覧したり、民と一緒にご覧になったことも聞きます。つまり、質の高い文化の殿堂だったわけです」  
と熱く語るのは伊江朝勇さんだ。大城昌周さんは「沖繩戦で失った御茶屋御殿を再建し、文化の殿堂を復活させることは、琉球文化の継承と振興には欠かせないと思います」と言う。また、琉球建築と

しても格式の高い建物で、1931年、旧国宝保存法の諮問機関である国宝保存会の阪谷良之進氏は、沖縄県内の重要建造物を詳細に調査し、御茶屋御殿を「国宝指定の第一候補」と位置付けた。  
「復元されたら、芸能や空手、ぶくぶく茶など琉球文化の発信地として活用したいですね。琉球の伝統的な結婚式を御茶屋御殿で挙げられるようにする、琉舞や空手の師範以上の免状の授与式を行うなど、沖縄の文化振興に役立ててほしい」と伊江さんが夢を語ると、大城さんも「歴史的経緯をふまえ、県や国の迎賓館としても使っていただきたい。首里城からのルート上である崎山馬場通りの無電柱化を図るなど、周辺の整備もぜひお願いしたい」と笑顔で語った。

御茶屋御殿  
復元期成会の皆さん



大城 昌周さん  
吉浜 秀彦さん 伊江 朝勇さん